

自動車運転免許合格

私の運転免許取得は昭和三十六年だから、もう四十年以上前になる。

私の免許証は自動二輪（大型）と普通の二箇所に印がある。あの当時自動車は高根の花、町内個人で持っている人は殆ど居ない。私は最初軽自動車を買う事にした。

宮城県運転免許試験場は、今の県営宮城球場にあった。軽自動車を運転するには軽免許が必要であった。

一二五cc以上の二輪車と二六五cc以下の軽自動車を運転できる。その上は小型四輪免許、（今の普通免許）以下は原付免許、私は歩いて試験受けに行った。午前に法規の試験があり合格。午後の実技試験、試験車は一五〇cc位のスクーターだった。

生まれて初めてスクーターに乗ったが、九〇ccのバイクに乗っていたので、バイクより楽だと思った。ギヤの切り替えがいらぬ、試験官はコースの真ん中にある少し高い所で採点している。夕方発表があり、無事合格した。

免許証取得後、マツダ三六〇cc軽四輪トラックを買った。私が二〇歳前、海軍工廠初声受信実験所にいた時、少し自動車を運転した事があるので、なんとかディーラーから受け取り、町の中を運転して、店頭まで辿り着き、近くにある電柱の前に停めようとしたが、停止が遅れ電柱にガシャリ、ボンネットを凹ませてしまった。

あの当時、車はあまり走っていないから、途中事故が無かったのだろう。ヒヤヒヤものの笑い話である。

自動車屋でも呆れたのか、可哀相だと思ったのか、無償で修理して呉れた。その後事故は起こさなかったが、故障が多いわ力がないわ、あの当時の軽は当たり前だったのだろう。

生家に行くと、米や野菜を百キロ位載いて積んで帰って来るが途中オーバーヒートを起こす。ユックリ走らなければならぬ。

愛島に行つての帰り、オイルポンプが故障、車を田圃の畦道に置き、徒歩やバスを利用して店に帰った。

翌日二リットル位の缶と細いチューブを持って行き、缶を車の

屋根の上に縛りつけ、チューブでキャブレターに直接繋ぎ、ガソリンを入れて走って来た事があった。

軽自動車には愛想を尽かし、約一年でお払い箱にした。それ以上の車に乗るには、小型四輪免許を受けなければならぬ。

日産の1200CCピックアップアップを買おう事に決め、まずは免許と試験を受けに行った。試験場はすぐ近くだ。

午前の法規試験で落第、法規試験に合格した者だけ、午後の実技試験を受けられる。甘く見ていた気配があった。午後一番町に問題集を買いに行き、猛勉強、翌日懲りずに試験場に出掛けた。私は物事に熱中する性格だ。

徹夜の勉強の甲斐があり、午前の法規には無事合格。午後の実技試験に進んだ、実技試験を受けた者は、約八十人、四十人ずつ二組に分かれ、一人ずつ助手席に試験官が乗りコースを回る。

夕方の発表の時、妻が子供達を連れて、見に来た。合格者は電光掲示板に表示する。私の番号が出た。思わずバンザイと手を挙げ叫んでしまった。

合格者は私達の組から三人、他の組から五人、丁度一割の合格者だった。

今でも妻はあの時のバンザイをした光景を覚えていて、「お父さんだったら」と赤面した様な事を言う。

昭和三十六年の思い出だ。子供達は七才と五才だが覚えていると言う。免許取得後、お盆に生家に初乗りを兼ね、お墓参りに行った。父は「臣市がハイヤーで来た」と知人に知らせに行き、連れてくる。田舎には普通自動車が無かった時代だった。

ダットサンピックアップは六人乗り、約六年故障知らずに乗り回し、その間、長男洋一の小学校修学旅行に付いて行った、思い出深い車である。

